

校長室だより 笑顔



◆さくら児童会スローガン：協力し 笑顔あふれる あかいつ子◆

さくらだいこくん



学力向上①「二中学区協同的な学び研修会」開催

11月25日（木）に、二中学区の小・中学校の教員が授業づくりの学びを深め、児童・生徒の学力向上を図る研修会が開かれました。今年度から始まった小中連携事業の研修会場は赤井小で全クラスが授業を公開しました。



授業では、「学び合い」（2・3人で交流し、自分の考えを深める）、「ジャンプの課題」（もう少しがんばればできそうなレベルの高い課題）、「ICT活用」（タブレットやデジタル教科書）、「アウトプット」（書き表したり、伝えたりする）等、本校の学力向上策を教科内容に合わせて取り入れました。授業後には研究主任（6年担任酒井）より赤井小の授業づくりや学力向上策を説明し、二中学区の小・中学校で共有しました。



研修会の後半は9月に本校にお招きした山形大学大学院森田智幸先生から講話をいただきました。当日の7つの授業の全てを取り上げて、子供の発言やノートに書いた考え、友達との議論の様子から、子供の思考の深まり方や広がり方について指導をいただきました。参加した他校の先生方からは、本校児童に対して「自ら学ぼうとする意識が高いこと」や「学び合いができています」と感想をいただきました。



学び合い（ペア学習）4年



二中学区以外の先生も研修会に参加



学力向上② 一人一人に目が届く「少人数指導」



一クラス14・5名で、じっくりと指導を行い学力の定着を図っています

今年度から算数の教科教育指導員として高野先生（昨年まで矢本一中の数学科教員）が児童の指導に当たっています。二中学区の4校を1週間交代で回り、本校では1クラスを2つに分けて、担任と高野先生がそれぞれ授業を行っています。

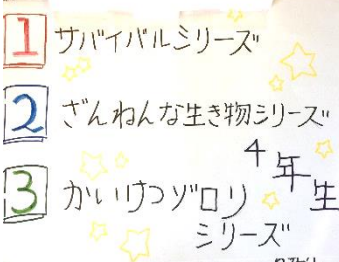
少ない人数で授業が行われるので、質問や発表の機会が増え児童からも大変好評です。



たくさんの本との出会いを・・・図書まつり開催



「ガチャガチャ」の説明



人気のある本のランキング発表

左の写真は図書委員が担当した児童集会（リモート）です。内容は図書まつりを開くのでたくさん集まって欲しいと宣伝をしました。期間中に本を借ると景品がもらえる「ガチャガチャ」ができることや、人気のある本のランキング、さらに各学年の多読賞の発表と15分の集会の中に、「図書まつりに行ってみたい！」と思う中身がいっぱいの集会でした。もちろん図書まつりには大勢のあかいつ子が集まり盛会でした。

異学年合同あいさつ運動



6年生が1年生の手本になって 自然と会話も弾みます

11月・12月にさくら児童会が中心になり、二つの学年が一緒に「あいさつ運動」を行いました。

1年生と6年生がペアになったり、2年生と5年生がペアになったりと、たてわり活動での仲の良さを生かしながら、異学年で行いました。寒くなり挨拶の声も小さくなりがちでしたが、東西どちらの昇降口からも気持ちの良い挨拶が聞こえてきました。

PTA 資源回収！ご協力に感謝！



上区の村上工務店様から、今年度もたくさんの段ボールをいただきました。ありがとうございました。

PTA 資源回収へのご協力ありがとうございました。新型コロナウイルス感染症感染予防のため、2年続けて平日の朝に分散して行いました。その結果、たくさんの新聞や書籍、アルミ缶が集まりました。回収によるお金は創作太鼓伝承推進基金へ繰り入れて、和太鼓活動の活動費として活用します。

【俊斎紙芝居】 11月29日は開校記念日！



リモート操作も6年生が担当 スクリーンに映る紙芝居も本校作成

11月29日は赤井小学校の開校記念日です。児童に3択クイズを出して何歳になったのかを聞いてみました。答えは148歳です。(明治6年、東周院を仮校舎として創立)

集会では、赤井出身の偉人大槻俊斎先生の紙芝居を6年生が読みました。郷土の偉人の話を聞いて、郷土や母校を愛する心を育てました。

俊斎学習プロジェクト 劇「大槻俊斎物語」上演：6年生

12月10日(金)に6年生が俊斎発表を行いました。これは総合学習で調べている大槻俊斎先生についての発表です。毎年ポスターセッションで全校児童に発表しますが、4年に1回は、劇で俊斎先生の生涯を発表します。不治の病(天然痘)と闘い、多くの命を救った志と江戸に送り出した赤井の皆さんの思いを堂々と表現しました。



迫真の演技

5年生と保護者が講堂で観覧

劇は6年生の保護者と5年生が講堂で、他学年はリモートで観覧しました。毎年9月の「俊斎月間」では全学年がH28年度に作った副読本「東松島市の偉人 大槻俊斎」を使って、俊斎先生の夢や希望、挫折や苦悩から「生き方」を学んでいます。

6年生のせりふ一つ一つから、これまで学習してきた思いが伝わってきました。最後には涙が・・・溢れました。